

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成16年12月2日(2004.12.2)

【公表番号】特表2000-507236(P2000-507236A)

【公表日】平成12年6月13日(2000.6.13)

【出願番号】特願平9-533003

【国際特許分類第7版】

C 0 7 K 14/475

A 6 1 P 1/02

A 6 1 P 1/00

A 6 1 P 15/14

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 17/14

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 19/10

A 6 1 P 21/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 K 38/22

【F I】

C 0 7 K 14/475

A 6 1 K 31/00 6 0 1 B

A 6 1 K 31/00 6 0 1

A 6 1 K 31/00 6 1 5 J

A 6 1 K 31/00 6 1 7 C

A 6 1 K 31/00 6 1 7 H

A 6 1 K 31/00 6 1 7

A 6 1 K 31/00 6 1 9 E

A 6 1 K 31/00 6 2 1

A 6 1 K 31/00 6 3 5

A 6 1 K 37/24

【手続補正書】

【提出日】平成16年3月11日(2004.3.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年3月11日

特許庁長官 殿



- 1 事件の表示 平成09年特許願第533003号
- 2 補正をする者
 - 住 所 スイス連邦共和国 バーゼル ムッテンツ
CH-4132 ホーフアカーストラッセ 12
 - 名 称 バイオイコール アーゲー
- 3 代理人
 - 住 所 東京都千代田区麹町3丁目1番8号
メイゾン麹町604号
 - 氏 名 弁理士 (7614) 市之瀬 宮夫
- 4 補正対象書類名 明細書
- 5 補正対象項目名 特許請求の範囲
- 6 補正の内容
 - 特許請求の範囲を別紙の通り補正する。



方 式 査 審



請 求 の 範 囲

1. 天然の成長因子含有物質からの成長因子複合体の抽出方法であって、
 - (a) 出発物質に水を加える工程と、
 - (b) pH値を酸の添加によって2.5～3.2に調節する工程と、
 - (c) 生ずる沈殿を上澄み液から分離する工程と、
 - (d) 水と混和性の有機溶剤を成長因子含有水溶液に加える工程と、
 - (e) 生ずる沈殿を分離して、乾燥させる工程と、
 - (f) 必要な場合には、得られる生成物を透析する工程とを特徴とする上記方法。
2. 天然の成長因子含有物質が哺乳動物からの乳と対応するホエー、鳥卵、魚卵、哺乳動物からの血液、哺乳動物からの尿、並びに蜂蜜及び植物の種子であることを特徴とする請求項1記載の方法。
3. pH値を2.5～3.2に調節するために、非酸化性無機酸又はモノー、ジー又はトリカルボン酸、又はこのようなモノー、ジー又はトリカルボン酸から誘導されるヒドロキシカルボン酸を用いることを特徴とする請求項1記載の方法。
4. 低級アルカノール又は低級ジアルキルケトン水を水と混和性の有機溶剤として用いて、成長因子複合体を分離することを特徴とする請求項1記載の方法。
5. 水と混和性の有機溶剤と、成長因子含有水溶液とを2:1から10:1までの量比で混合することを特徴とする請求項1記載の方法。
6. 乾燥後に得られる成長因子複合体を脂溶性溶剤によって抽出することを特徴とする請求項1に記載の方法。
7. 下記工程：
 - (a) 成長因子含有物質に水を加える工程と、
 - (b) pH値を酸の添加によって2.5～3.2に調節する工程と、
 - (c) 生ずる沈殿を上澄み液から分離する工程と、
 - (d) 水と混和性の有機溶剤を成長因子含有水溶液に加える工程と、
 - (e) 生ずる沈殿を分離して、乾燥させる工程と、
 - (f) 必要な場合には、得られる生成物を透析する工程とによって得られる成長因子複合体。
8. 請求項7記載の成長因子複合体が生理的に十分に許容される補助剤及びキャリアー材料中に有効成分として含有されていることを特徴とする組成物。
9. 創傷、血腫、歯周炎、脱毛症、種々な形態の癌及び胃腸障害の治療の

ため、脱毛症と骨粗しょう症の予防のため、皮膚構造の改善のため、筋肉量の発達のため、及び哺乳動物における乳産出量を高めるための方法であって、請求項7記載の成長因子複合体を施用することを特徴とする方法。

10. 下記工程：

- (a) 成長因子含有物質に水を加える工程と、
 - (b) pH値を酸の添加によって2.5～3.2に調節する工程と、
 - (c) 生ずる沈殿を上澄み液から分離する工程と
- によって得られる成長因子含有水溶液。